JCPF会報 第77号 平成27年6月20日(3・6・9・12月20日発行)(平成15年10月3日 第三種郵便物認可)
ISSN 0918-8878

JCPF会報

Japanese Cleft Palate Foundation
特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会

Established in 1992

発行 特定非営利活動法人 日本口唇口蓋裂協会事務局
〒464-8651 名古屋市千種区末盛通2-11
愛知学院大学歯学部内
TEL：052(757)4312 FAX：052(757)4465
振込口座：郵便局 00850-1-109941
三菱東京UFJ銀行覚王山支店 普通 1045666
http://jcpf.agu.jp E-mail:jcpf@jcpf.or.jp

Vol. 24, No. 1
(平成27年6月20日発行)
77

新刊「口唇口蓋裂Q＆A140」御案内

当協会では1992年の設立以来、口唇口蓋裂の正しい理解を社会へ呼びかけることを目的に、翻訳書も含めて世界中でこれまで30種類以上の啓発書や育児書を発刊して参りました。

本年は、「口唇口蓋裂Q＆A140」を、医歯薬出版(東京都文京区)より発行させて頂きます。医療現場で長年にわたり患者様とともに歩んできた医師などが回答者となり、治療のうえで重要であるさまざまな問題140題にお答え致しました。目次は下記のとおりとなっております。

図表も豊富に取り入れて、医療の専門知識を持っておられないかたでも大変に読み易くなっております。

「ページ数が約180頁となりますので、弊社の通常のコスト計算からしますと、5,000円以上となりますが、この本は、息の永い本となり、部数を見込めるとの経営判断で、本体3,800円に抑えることができました。読者の負担を減らすことができ、担当者として嬉しかったです」(出版担当者)と価格面でも皆様の要望にお応えしております。

全国の書店などでご購入ご注文して頂けます。

「口唇口蓋裂Q＆A140」
— 目次 —

第1章 口唇口蓋裂の基礎知識
第2章 術前・手術
第3章 矯正・補綴
第4章 言 語
第5章 育 児
第6章 治療費用・社会サービス
第7章 哺乳・摂食の問題
第8章 耳の問題
第9章 歯の問題
第10章 心理的問題
第11章 その他

「口唇口蓋裂Q＆A140」
夏目長門 編著

ご家族の方々だけでなく，医療，教育関係の方々にも口唇口蓋裂について正しく理解していただくために

定価 4,104 円(本体 3,800 円＋税 8%)

Q＆Aコーナー

質　問：東京医科大学病院の口唇口蓋裂センターについて教えて下さい。

お答え：東京医科大学病院　歯科口腔外科・矯正歯科　科長
東京医科大学病院　口唇口蓋裂センター　センター長
近津大地 先生

2014年12月1日、東京医科大学病院に口唇口蓋裂を専門に治療する口唇口蓋裂センターが開設されましたので、ご紹介いたします。当センターの特徴としましては、産科・小児科・耳鼻咽喉科・形成外科・歯科口腔外科・矯正歯科など口唇口蓋裂の治療に関わる診療科が同センターのもとで連携して対応しており、一つのチームとして定期的にカンファレンスを行い、患者さんの情報を共有して総合的に治療にあたることができるという点です。こうした対応が当大学病院で可能な背景として、口唇口蓋裂に係る診療科がすべて揃っていること、しかも、それらの治療に携わるスタッフが高い専門性を兼ね備えていることがあげられます。これまで、このように口唇口蓋裂の治療を総合的に行うことができる施設は都内でも限られていたこともあり、当センターの口唇口蓋裂治療に対して期待が寄せられています。

治療の進め方

出　生　前：当大学病院の連携病院等で口唇口蓋裂の出生前診断を受けた場合、当大学病院の産科、小児科、形成外科、歯科口腔外科から両親にカウンセリングを行います。
出生直後：哺乳障害に対して、哺乳床を行います。
口唇形成：通常、生後3か月頃に口唇形成術を行います。
口蓋形成：通常、1歳半頃に口蓋形成術を行います。硬口蓋まで及ぶ大きな裂がある場合には、顎発育を考慮して二段階法で行っています。
鼻　変　形：鼻部の変形を生じた患者さんには、骨・軟骨の移植を含む鼻成形術を行い、その形態を整えます。
言　　語：言語聴覚士が、口蓋形成術前から定期的に言語訓練を行います。
中　耳　炎：口蓋裂の患児は中耳炎を発症しやすいため、耳鼻咽喉科医が定期的に治療を行います。
歯科矯正治療：5歳児頃に咬合不正の評価を行い、その後、程度に応じて歯科矯正治療を開始します。また、顎裂があると後継永久歯の萌出、移動ができないため、適切な時期に顎裂部骨移植術を行います。
顎矯正手術：上顎の顎発育が悪く反対咬合など上下顎にアンバランスが認められる場合、顎矯正手術により咬合の回復を行います。

このように口唇口蓋裂の治療は、長期かつ多岐にわたるため、患者さんのみならずその両親にもさまざまな面で負担を強いることになります。東京医科大学病院は、自立支援医療・更生医療の指定病院であり、申請によって手術や歯科矯正治療などに対して医療費の補助を受けることができます。
また、交通のアクセスが良い新宿にあり、定期的な通院に便利という立地条件も備わっています。
こうした利点を踏まえ、さらに、チーム医療の促進に向けて電子カルテによる各診療科の情報共有化を促進するなど、当センターは口唇口蓋裂の患者さんにとってより利便性の高い治療の実現に向けさまざまな取組みを進めてまいります。

患者受診の流れ

紹介患者さんにつきましては、最初に小児科を受診して頂きます。その後、関連各科での治療計画にしたがって適切な時期に適切な対応を行います。

診療体制（主要メンバー）

センター長：歯科口腔外科・矯正歯科科長　近津大地
副センター長：形成外科科長　松村　一
耳鼻咽喉科科長　河野　淳
小児科主任科長　河島尚志
産科・婦人科科長　井坂恵一

東京医科大学病院口唇口蓋裂センター　ホームページ
http://hospinfo.tokyo-med.ac.jp/shinryo/koushin/index.html

質　問：口唇裂の手術時期について、その利点欠点も交えて教えて下さい。

お答え：東京医科大学病院　形成外科　科長　松村　一 先生

口唇裂・口蓋裂の治療で、最初に手術が行われるのは口唇裂の手術になります。口唇裂の手術では、途切れたり欠損したりしている口唇組織の形態の改善することと、途切れた口唇の中の筋肉を連続させることでの哺乳機能の改善が大きな目的となります。
手術は比較的早期に行われることが多く、一般的には生後3ヶ月前後、体重5～6kgを目安として、全身麻酔で行います。この時期に行うのは、全身麻酔を十分に安全に行える時期であること、後述する手術前の準備が整うことが必要なためです。当院でもこの時期に口唇裂の手術を行っています。一部の施設では生後2週間以降で手術を行う早期手術も試みられていますが、手術する患児の口唇組織自体が小さく、また、全身麻酔も極めて慎重にしないといけないという欠点が有ります。一方、傷跡がやや目立たないなどの利点があるようですが、まだ、十分な知見となっている状態ではありません。また、口唇裂と口蓋裂の一部の手術を同時に行う場合もあり、この場合は生後6ヶ月の時期に行います。
もちろん、口唇裂・口蓋裂の状態は患児により、大きく異なります。特に両側性の場合、裂の状態によって両側同時に手術する方法と，片側ずつ2回に分けて1回目を3か月、2回目を6～7ケ月頃に手術する方法がありますが、当院では、通常生後3ヶ月前後で、両側同時に行っております。
口唇裂手術前の準備としては、ほぼ1ケ月毎に全身状態、口唇、口蓋などの診察をおこないます。口唇裂・口蓋裂の患児では、心臓やその他の疾患を合併することもありますので、まずは小児科で全身の診察を行います。また、裂が拡がらないように、また両側唇裂の場合は裂の中間の部分が前の方に出てこないようにテーピングをして、手術をやりやすくすることも行います。この場合は、テープかぶれが起こらないように、家庭での方法を指導します。また、手術直後は口唇の筋肉を縫合しますので、術後の哺乳でその部分に大きな力が掛からないようにスポイトで哺乳することも練習していただきます。さらに、歯科口腔外科にて、口唇口蓋にＨＯＴＺ床やＮＡＭと呼ばれる装置を装着することも有ります。
当院では、口唇口蓋裂センターがあり、多くの診療科で患児をチームで診療しています。口唇口蓋裂の患児では、生後まず小児科で全身的な診察を行った後に、形成外科を受診していただき、手術計画を行います。必要に応じて、歯科口腔外科や耳鼻咽喉科などの診察を行います。術前の手術前の準備とともに、全身麻酔のために麻酔科で術前のチェックを行ってから、手術の前日に入院していただき、手術後約1週間で退院、その後も外来でのチーム医療が継続されます。

総会・活動報告会開催

平成27年度特定非営利活動法人日本口唇口蓋裂協会　活動報告会が5月12日(火)に中部電力東桜会館で開催されました。今回の報告会には、当協会の医療援助活動にも大変関わりが深く、同国における協会の活動に行政面より多大なるご支援を賜っておりますエチオピア連邦民主共和国マルコス・タクレ・リケ駐日特命全権大使が令夫人と来名しご出席くださり、川口文夫理事長よりマルコス大使閣下へ感謝状を贈呈いたしました。また、設立当初より理事としてご尽力賜りました豊田章一郎氏が退任となり、引き続きは名誉顧問としてご指導いただくことになりました。これに際し、名誉顧問授与式を行いました。

川口理事長あいさつ

エチオピア マルコス・タクレ駐日特命全権大使へ感謝状贈呈

平成26年度　事業報告

国内事業

(ア) 交流啓発事業
- 大学や専門学校の学生に協会の活動を紹介

(イ) 口唇口蓋裂児－発生予防や治療法理解の為の事業
- ホームページや講演会による情報提供
- 寄附講座での講演会

(ウ) 親の会への援助
- 「口唇口蓋裂を考える会」の親睦会で患者家族の抱える悩みなどにアドバイスを行った。
- 琉球大学医学部附属病院内に設置された当協会沖縄県支部において、夏目長門常務理事が講演した。
- 東京・銀座の専門施設で行われた資生堂のカバーメーキャップ(医療用化粧)の講座に、夏目長門常務理事ら6名が参加した。

(エ) 悩みの相談事業
- 今年度は15件の相談があった。

医療・手術・治療に関する悩み	5件
病院紹介	2件
遺伝・結婚に関する悩み	1件
育児・授乳・離乳食に関する悩み	4件

(オ) 会報発行事業
- 年4回発行し、活動の情報提供をした。

(カ) 書籍、ビデオによる啓発事業
- 口唇口蓋裂理解のため、本やDVDの提供を実施した。

(キ) 言語障害者の遠隔言語訓練事業
- 米国在住の患者家族へ言語発達指導、訓練を行い、モンゴル国内ならびに日本との言語指導を行った。
- モンゴル国内ならびに日本との言語指導を行った。

(ク) 認定NPO法人としての事業

海外事業

(ア) 医療診察事業
①モンゴル国
②ラオス人民民主共和国
③ミャンマー連邦共和国
④ベトナム社会主義共和国
⑤エチオピア連邦民主共和国
⑥バングラデシュ人民共和国
専門家を派遣し、無償診療や無償手術、学術交流等を行った。

(イ) 人材育成事業
- モンゴル人1名、ベトナム人2名の受け入れ

(ウ) 医療物資支援事業
- 各診療隊(モンゴル、ベトナム、ラオス、エチオピア)や専門家(バングラデシュ)が、必要な機材・薬剤を日本から持参し、現地医療施設へ寄贈した。

(エ) 海外のNGOとの情報交流
- 第4回国際口唇口蓋裂協会総会(CLEFT2014)が開催され、運営に協力した。

(オ) 自立支援事業
- ベトナム国への自立資金貸し付け

(カ) 英文会報の発行

(キ) 国際口唇口蓋裂協会事務局
- CLEFT2015に関する情報提供
- CLEFT2014の業務補助

環境保全事業

(ア) 貴金属リサイクル事業
- 全国11の歯科医師会後援事業として、歯科医院や大学病院、一般の方々から頂いた金歯、銀歯、撤去冠などの貴金属をリサイクルし、活動資金に利用
- 過去の協力歯科医院や医療施設への本事業の再周知と協力再依頼

(イ) 携帯電話リサイクル事業

会員ならびに収益の増加のための事業
- 新聞、雑誌等への活動掲載により協会活動をPR
- 協力企業コカコーラグループ(2社)に加え、キリンビバレッジ、アサヒ飲料、大塚食品、ダイドードリンコ、サントリービバレッジグループ(2社)と協力メーカー6社(8社)に本年度より株式会社伊藤園が加わり、計7社(9社)と協賛し、募金機能付自動販売機の設置に向けた活動を行った
- ALSOKと協賛し、セキュリティシステム契約時の一部寄附をする事業では、案内を送付し会員の先生方へ契約を促した。

その他
- ベトナム前国家副主席チュオン・ミン・ホア閣下ならびにベトナム越人協会幹部の方々が来日し、当協会の平成26年度活動報告会に出席し、川口文夫理事長より感謝状を贈呈した。
- ベトナムのドアン・スアン・フン駐日特命全権大使が来名し、大村秀章愛知県知事ならびに名古屋を代表する国立病院の先生方とのランチ会議を当協会が調整し開催した。
- モンゴル国ツァヒアギーン・エルベグドルジ大統領に謁見し、協会の活動について報告した。
- モンゴル国ソドブジャムツ・フレルバータル駐日特命全権大使の来名に際し、安藤琢弥名誉顧問が歓迎昼食会を開催し、夏目長門常務理事が出席をし、今後の医療交流や学術交流について懇談した。
- バトバータル・グンチンモンゴル国立医療科学大学学長来名し、名古屋市立大学医学部、名古屋大学医学部、愛知学院大学、モンゴル国名誉総領事館(医療法人生生会)などを訪問した。当協会が毎年実施するモンゴル国への医療支援の診療隊隊員との交流会を開催した。
- モンゴル国ソドブジャムツ・フレルバータル駐日特命全権大使が名古屋大学グローバル人材のための国際情勢講座「モンゴルから見た北東アジア情勢」の講演のため来名し、夏目長門常務理事と同大学の先生方と今後の医療協力について会談した。講演会に当協会スタッフ1名が参加し、講聴した。
- モンゴル国立医療科学大学の教員・学生ならびに同国医師の総17名が名古屋に滞在し、名古屋市立大学病院や愛知県がんセンターなど、愛知県を代表する各病院の視察などを行い、夏目長門常務理事が随行した。
- 公式来日中のラオス人民民主共和国のトンシン・タンマヴォン首相に、日本口唇口蓋裂協会を代表し夏目長門常務理事が中野薫哉氏学校法人愛知学院理事長とともに謁見し、これまでの当協会のラオス国への活動について報告をし、活動をまとめたプロモーションビデオを贈呈した。
- 名誉領事館の招喚により、メサイ・S・メンギスツ　エチオピア航空の日本支社長が来名し、同航空会社貨物便就航に向け中部国際空港(セントレア)への視察や当協会の相談役でもある三菱航空機株式会社 江川豪雄 取締役会長との会談ならびに同社MRJ機のプレゼンテーション、組立工場の見学をした。当協会は名誉領事館事務局として、日程調整含む実務を行った。
- エチオピアより、県政と自治体との連携等について修学するため、ムクタール・ケドゥル　オロミア州知事ならびに州地区関係者ら6名に在京大使館より3名の計10名が来名し、大村秀章愛知県知事への表敬訪問や同県庁産業労働課と会議をし、講習や意見交換会を行った。当協会は名誉領事館事務局として、日程調整含む実務を行った。
- 沖縄県とエチオピアのオロミア州との交流実現のために、マルコス・タクレ駐日特命全権大使ならびに令夫人の沖縄県及び琉球大学訪問において、名誉領事館事務局として、日程調整等を行い、夏目長門常務理事らが随行した。
- 衆議院の招致により日本へ公式訪問されていたエチオピアの人民代表議会アバデュラ・ゲメダ下院議長ら一行(在京大使館ならびに衆議院関係者含め計18名)が来名し、名誉領事館が愛知県を代表する方々との交流会議を開催した。当協会を代表して夏目長門常務理事が出席し、同国への医療交流についてプレゼンテーションを行った。また、当協会は名誉領事館事務局として日程調整を含む実務を行った。
- 日本の最新科学技術の視察のため、ダミチュ・ハンビサ　エチオピア科学技術省科学技術大臣ら一行8名が来名し、当協会が本部を置く愛知学院大学への表敬訪問やハイテクキャンパスの視察、医療施設と芸術工学とのコラボレーションを行っている名古屋市立大学を訪問し、当協会相談役の松本定道名誉領事と夏目長門常務理事が同行した。
- 駐日バングラデシュ人民共和国大使館主催の「バングラデシュ・ビジネスセミナー in名古屋」が、名古屋商工会議所内会議室にて行われ、マスード・ビン・モメン駐日特命全権大使が同国に関心のある企業約30社、約40名を対象に講演をした。当協会は後援事業として、開催準備や当日の補助的業務を行った。
- 名古屋へのバングラデシュ名誉総領事館の開設において、9月に当協会の相談役の江川豪雄三菱航空機株式会社取締役会長が名誉総領事に任命されたことにより、認証授与式ならびに名誉総領事就任披露式典が開催され、当協会が開催準備や当日の補助的業務を行った。本会には、同国マスード・ビン・モメン駐日特命全権大使をはじめ、各国の大使や大村秀章愛知県知事、河村たかし名古屋市長、各国の在名古屋名誉総領事・名誉領事など、多くの著名な方々が出席した。
- モンゴル国ウランバートルで開催された、日本モンゴル文化交流協定締結40周年記念「日本モンゴル医学衛学交流フォーラム(主催：日本医学衛学情報機構、協力：日本口唇口蓋裂協会)において、バトバータル・グンチンモンゴル国立医療科学大学学長より、長年モンゴル医療支援事業に携わった関係者に感謝状が贈呈された。
- 毎年10月8日(入れ歯の日)に覚王山の日泰寺(名古屋市千種区)で行われる愛知県保険医協会歯科部会主催の第29回入れ歯供養祭に夏目常務理事ならびに協会スタッフ5名が参加した。今回より故河合幹細間の後を継ぎ、夏目常務理事が代表して挨拶をした。同協会へはバトバータル・グンチンモンゴル国立医療科学大学学長より感謝状が贈呈された。協会の活動を示したパネルを展示して活動の周知を行った。本会で供養された品の一部は、貴金属リサイクル事業を通じて用協会へ寄附された。
- 夏目長門常務理事が名古屋大学のヤング・リーダーズ・プログラム(YLP)の講義を、アジア諸国(モンゴル　ミャンマー　バングラデシュ　マレーシア　カンボジア　カザフスタン　キルギス　ウズベキスタン　アフガニスタン)の厚生省より派遣された第12期生11名を対象に行った。

平成27年度　事業計画

国内事業

(ア) 交流啓発事業
(イ) 口唇口蓋裂児ケア－発生予防の為の事業
(ウ) 患者、家族ならびに親の会への支援
(エ) 悩みの相談室
(オ) 会報の発行
(カ) 書籍・DVDによる啓発事業
(キ) 言語障害者の遠隔言語訓練事業
(ク) 認定NPO法人としての業務
(ケ) 国内プロジェクト企画・調査・会議事業

海外事業

(ア) 医療診察事業
①ベトナム社会主義共和国
②モンゴル国
③インドネシア共和国
④ミャンマー連邦共和国
⑤ラオス人民民主共和国
⑥バングラデシュ人民共和国
⑦エチオピア連邦民主共和国
⑧カンボジア王国
⑨その他

(イ) 人材育成事業
(ウ) 医療物資支援
(エ) 海外のNGOとの情報交流
(オ) 自立支援事業
(カ) 支部活動
(キ) 口唇口蓋裂等の治療可能な貧児の命を守るための事業
(ク) 英文会報の発行・HPへの掲載
(ケ) 国際口唇口蓋裂協会事務局
(コ) 海外プロジェクト企画・調査・会議事業
(サ) 河合　幹　記念事業

環境保全事業

(ア) 貴金属リサイクル事業
(イ) 携帯電話リサイクル事業

会員・収入の増加のための事業

事業実施のための寄附・啓発活動

(ア) 寄附型自動販売機の設置事業
(イ) 募金箱の設置事業
(ウ) 手術賛同の募金事業

平成26年度決算・平成27年度予算

科　目	平成26年決算額	平成27年予算額	科　目	平成26年決算額	平成27年予算額
Ⅰ．収入の部			Ⅱ．支出の部		
会費収入	10,338,892	9,600,000	事業費(1)人件費	12,302,661	10,000,000
財団等補助金	3,748,657	2,000,000	(2)その他経費	31,112,794	14,585,000
寄付金収入	35,018,450	27,100,000	管理費(1)人件費	4,652,890	7,460,000
雑　収　入	5,751,108	103,000	(2)その他経費	6,695,537	5,537,501
当　期　収　入　合　計	54,857,107	38,803,000	当　期　支　出　合　計　(B)	54,763,882	37,582,501
前期繰越正味財産額	18,910,978	19,004,203			
収　入　合　計　(A)	73,768,085	57,807,203	次期繰越収支差額(A)－(B)	19,004,203	20,224,702

最近の国内活動

■ラオス首相、協会への謝意を表明

2015年3月4日、来日中のトンシン・タンマヴォン ラオス首相に、夏目長門常務理事が学校法人愛知学院理事長の中野重哉氏とともに面談されました。

多忙なスケジュールの中、面談の時間を取ってくださったトンシン首相にラオスにおける協会の医療援助活動をまとめた動画を見ていただいたところ、「これまでにたくさんのラオスの子ども達に笑顔を贈ってくれてありがとう。これからも、ますます多くのラオスの子ども達を救っていただきたい。口唇口蓋裂協会とラオスが末永くよい関係を続けていくことを望みます。」とのお言葉をいただきました。

■第一モスクワ国立医科大学代表来名

2015年4月27日より3日間、第一モスクワ国立医科大学の国際担当代表Dr. Olga SADKOVAYAが来名、夏目長門常務理事らと本年9月2日(水)～4日(金)に上記大学で開催する国際口唇口蓋裂会議の打合せを致しました。小出忠孝愛知学院学院長・当団体相談役とも面談をなされ、CLEFT2015の前々日及び前日に同じく上記大学で開催される日露医学歯学交流フォーラムについても話が及びました。

第一モスクワ国立医科大学は1758年創立のロシア最古かつ最大の医科大学で、国際口唇口蓋裂会議及び日露医学歯学交流フォーラムの開催をきっかけに、日本の医療系大学や病医院と交流を深めていきたいと考えています。ロシアの医療の質は日本と引けをとらず、口唇口蓋裂の研究も活発で、当団体は今後、ロシアとの学術交流を進めていく予定であります。

寄付講座のご報告

■寄附講座のご報告

平成27年3月14日(土)、愛知学院大学楠元学舎にて、ゲノム解析の分野でご高名な 3 人の先生をお招きし、それぞれにご講演を賜りました。

太田 亨 先生

三宅紀子 先生

松本直通 先生

1. 北海道医療科学大学 個体差健康科学研究所 太田享教授よりは「言語関連遺伝子FOXP2の標的遺伝子の解明—人間の言語獲得能力はどこまで分子遺伝で解析できるか—」と題し、研究成果をご報告頂きました。FOXP2蛋白(アミノ酸)の変異がヒトの言語発生に必要な能力に関与するとの仮説に基づき、マウス実験やキンカチョウによる考察、そして家系研究の話も交え、言語能力の遺伝関与を解説下さいました。
2. 横浜市立大学医学部 准教授 三宅紀子先生よりは「歌舞伎症候群の遺伝的解析」と題し、口腔疾患を呈するケースも多い歌舞伎症候群について、遺伝の観点からの研究成果をご報告頂きました。次世代シーケンサーの登場により遺伝子の網羅的研究が可能となり、当該疾患に関与する遺伝子の同定は画期的に進んでおります。今回は、臨床的に歌舞伎症候群と診断された患者にスクリーニングを行った解析から、歌舞伎症候群の症状は遺伝的には2種類に大別されること、特定の症状に特定の遺伝子が関与していることなどを解説下さいました。
3. 横浜市立大学医学部 松本直通教授よりは「遺伝性疾患の次世代シーケンス解析」と題し、次世代シーケンスによる研究の現状を報告して頂きました。現在、実質的に一社独占状況にある遺伝子解析は、コスト的には非常に難局に直面しており、莫大な研究費用が問題となっていることを強調されました。

(以上ご講演順)

それぞれの先生ご講演後の質問の時間には、遺伝子研究や診療上のアドバイスを求めて現役の医師らより数多くの質問が出されました。

海外医療援助

ラオス人民民主共和国
平成26年12月18日～12月26日
(第25次ラオス人民民主共和国医療援助事業活動、前号続き)

日本医学歯学情報機構の活動の一環で、平成26年12月18日～26日までは、琉球大学を中心とした先生方がセタティラーと病院で20名の診察と11名の手術をおこない、日本口唇口蓋裂協会がサポートしました。

手術の様子

西原　一秀	琉球大学医学部	准教授	平成26年12月18日～26日
後藤　尊広	琉球大学医学部	助教	平成26年12月18日～25日
牧志　祥子	琉球大学医学部	助教	同
佐藤　博子	琉球大学医学部	研修医	同
余語　久則	豊見城中央病院	麻酔科医	同

第9回国際口唇口蓋裂会議《New Horizons for Cleft Patients》

The 9th World Congress of International Cleft Lip and Palate Foundation

開催月日：2015年9月2日(水)～4日(金)

国際口唇口蓋裂協会(事務局：日本口唇口蓋裂協会内)主催の国際会議が、口唇口蓋裂患者治療への新たなる挑戦に向けて、第一モスクワ国立医科大学で開催されます。同大学はロシア最大の医大で、この機会をご利用いただき、ぜひともご参加ご検討いただきますようご案内いたします。なお、参加登録早期割引期限は7月31日に延長されております。アジアでの開催には少なかったヨーロッパ各地からの招待講演者も予定されております。ロシア口唇口蓋裂学会との共催でもあり、ロシアの医療現状を理解するよい機会ではないかと考えております。市内観光などツアー企画も用意されております。

開催場所：ロシア連邦モスクワ市
会　　場：第一モスクワ国立医科大学
抄録応募は　WEB: http://www.icpf2015moscow.org/tezisy/podat-tezis/　にて詳細をご覧ください。

詳細についてのお問い合わせは下記でも承っております。(日本語可)
(国際口唇口蓋裂協会日本事務局　office@icpfweb.org)
参加登録手続きはhttp://www.icpf2015moscow.org/registration/oplata/
でご覧いただけます。

参加費用	早期割引 2015年7月31日まで	2015年8月1日以降
医師・歯科医師	22,000 RUB	25,000 RUB
研修医・大学院生	6,500 RUB	9,500 RUB
看護師・コメディカル	12,500 RUB	15,500 RUB
同伴者	6,000 RUB	9,000 RUB

※現地での当日の参加登録費は更に高額(金額未定)になる見込みです。

本国際会議に先立ち、在ロシア日本国大使館の後援を受け、8/31～9/1は日本ロシア医学歯学交流フォーラムも日本医学歯学情報機構と第一モスクワ国立医科大学共催で開催いたします。9月1日のプログラムでは同大学の入学式にご参加いただけますので、貴重な機会になるのではないでしょうか。あわせてご参加をご検討くださいますようご案内申し上げます。
(フォーラム連絡先：office40@jmdn.org)

ベトナム ―ニンビン省での口唇口蓋裂無償手術と技術移転

九州大学大学院歯学研究院 口腔顎顔面外科学分野 教授 森 悦秀

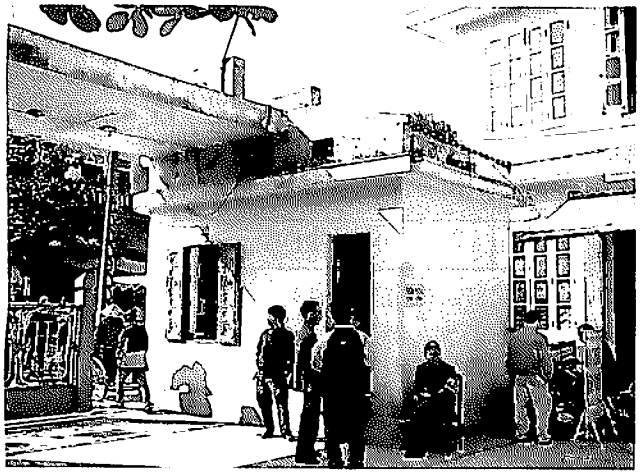
はじめに

1990年中頃には日本口唇口蓋裂協会の医療支援チームがベトナム社会主義共和国の南部(ベンチェ省およびホーチミン市)および中部(クアンナム省)に入って活躍しており、私自身も1996年、97年はベンチェ省での医療支援に参加しました。1998年からベトナム北部に新たな医療支援活動を立ち上げることになり、私は現場責任者として、当時在籍していた大阪大学歯学部のスタッフを中心に8～10人の医療支援チームを結成しました。その後、メンバーの一部は九州大学、愛知学院大学、岡山大学、山口大学等に移りましたが、年1回約2週間の活動は、皆スケジュールを調整して参加しています。

同じベトナムでも、地域により人の気質、環境は異なります。ベトナム北部ニンビン省での活動について振り返りたいと思います。

地方都市、ニンビンの変化

活動場所となったニンビンの町は、首都ハノイの南約100kmに位置するニンビン省の省都です。活動開始当時の省の人口は約90万人、町は人口約8万人の田舎町でした。気候は亜熱帯気候で、夏は高温、高湿度になりますが、年中夏の南部と異なり、11月から2月の乾期は気温20度前後と過ごしやすくなります。私たちはこの時期に活動を行いました。ニンビン省の中心を国道1号線と幹線鉄道が通り、ハノイ近郊であることから発展の可能性があるはずでしたが、当時は国道、鉄道とも未整備で、歴史的背景から農業以外の産業に乏しい、お世辞にも裕福とは言えない町でした。しかし、治安は良く活動中に不安を感じることのない、昭和30年代生れの私にとってはどこか懐かしい風景を持つ町でした。人も南部に比べるとおとなしく、少し取りつきにくい感がありましたが、約束したことは守る誠実な人が多い印象を受けました。活動拠点であるニンビン総合病院のたたずまいも同様で、350床を擁する省の基幹病院でありながら、日本の昭和30年代を思わせるような建物・設備で、手術室にはハエやヤモリが入り込み、手術中に停電が起こることも当たり前でした(写真左)。



旧ニンビン総合病院正門

新築の新ニンビン総合病院玄関

この17年間でベトナムは経済的に飛躍的な発展を遂げました。ハノイからニンビンに至る国道1号線はめざましく整備が進み、ニンビンは人口が増加して町から市になりました。手狭になった旧市街の横に新市街が造成され、病院も2009年に新築移転し、病床は倍増、設備も一新されて医学部病院並みの規模になりました(写真右)。腹部外科では内視鏡手術が当たり前のように行われています。医療環境にも変化が生じています。以前は治療を全く受けずに成人した口唇口蓋裂患者さんを多数見ましたが、経済状態と交通アクセスが良くなり、ハノイで治療を受ける方が増えてきました。また、ハノイの医療施設の医療技術も向上しています。大都市に近接した地方都市での医療をどう位置づけるか、日本が抱えてきた問題がここにも芽生え始めています。

活動内容と今後

私たちは、口唇口蓋裂無償手術を通して、医療技術および医療システムを移転することを目的に、1回の活動あたり30～40例の手術を行ってきました。私たちの最終目標は、現地のスタッフのみで年間を通して口唇口蓋裂患者さんを治療できるようにすることです。このため、手術のプロトコルは日本と同様とし、短期的な医療支援で行われるような治療の集約(1回の手術で多くの治療を行い、回数減らす)を敢えて行いませんでした。口唇口蓋裂治療は、適切な時期に適切な治療を行う一貫治療が重要と考えたからです。初期に治療した赤ちゃんは、私たちがニンビンに来るごとに治療を受けていましたが、今では高校生に成長しています。診察は通訳を通して行っていますが、やはりベトナム語を理解できないと、口蓋裂手術後の言語の変化を的確に捉えられないと痛感しています。現地スタッフとのコミュニケーションと教育はできるだけ英語で行っています。こうした活動の結果、現地スタッフだけで全身麻酔をかけ、口唇口蓋裂の手術を行えるようになりました。ここでの全身麻酔の普及は大阪大学歯学部歯科麻酔学の丹羽均教授のご尽力によるものです。

私たちの活動はニンビンの町の発展とともに成熟し、目的の一部は達成した感がありますが、まだ多くの問題が残されています。第一が、ハノイとの役割分担です。口唇口蓋裂の患者は小児が主体ですので、地元で治療可能であることが重要ですが、医療資源の豊富なハノイとの役割分担が刻々と変化して、安定しません。第二に人的問題です。技術移転を行いましたが、医療者の技術的なメンテナンス、次世代の教育を完遂するには至っていません。こうした問題は、一地方で対応するには難しく、国家レベルでの計画が必要でしょう。

口唇口蓋裂に対する外科的治療技術は移転できましたが、言語治療、歯列矯正など後続治療の技術移転はこれからです。昨年、ニンビン総合病院内に遠隔会議システムが導入され、現在九州大学病院のアジア遠隔医療開発センターと接続作業を行っています。この接続が可能になると、術後患者の経過観察だけでなく、継続治療の必要な言語治療、歯列矯正が大きく前進すると考えられます。これからも、少しでも現地の力になれればと思っています。

※ 本記事はデンタルタイムス21に掲載されたものを、歯科時報新社様の許可を得て掲載しています。

新規法人会員のご紹介
ご入会頂きありがとうございました

◆法人賛助会員

コカ・コーライーストジャパン株式会社

東海東京証券株式会社

「チーちゃんのくち」が増刷されました

当団体が監修を行い10年前に発行しました絵本「チーちゃんのくち」が好評につき、本年6月に増刷されました。

今回で第3刷目となります。

非常に平易ながら、口唇口蓋裂の理解に大変に有益な一冊です。

チーちゃんのくち（2005年発行）
発行：口腔保健協会
定価：税抜 1,600 円

日本口唇口蓋裂協会ロゴマーク公募のお知らせ

当協会は設立以来、右記のロゴマークを使用してまいりました。
もうひとつのロゴとして新たなロゴマークを募集中です。

条件は下記の三点を満たす図柄とさせて頂きます。

1) 当協会のイメージに一致するもの
2) 海外でも認められるもの
3) 当団体発行の冊子、当団体使用の封筒などに印刷が可能なもの

作品はデジタルデータにて、下記まで、ご氏名・郵便住所を必ず添えて御応募下さい。
採用のかたに、ささやかな記念品を贈呈致します。

応募締め切り：2015年10月末日

問合せ先・送付先
担当　吉田
E-Mail:info7@jcpf.or.jp

（会報担当：吉田）